

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>1 公共施設の再編と学校教育施設について （25分）</p> <p>この度、鶴ヶ島市公共施設実態把握調査の報告書をいただきました。本市における公共施設の情報収集、各施設の現状を把握し、今後「鶴ヶ島市公共施設個別利用実施計画」の策定へと進められていくこととなります。報告書の中で、施設の維持管理運営コストに関する調査の「調査結果」において、「公共施設を現状のまま維持すると、今後30年間で625億円、年間約20.8億円が必要」とされており、これらの費用は主に大規模な面積を有する学校教育施設であり、学校教育施設の更新、改修費用は全体費用の約70%を占めるということです。</p> <p>私たちはこれまで、少子化を踏まえた中での学校教育施設の在り方について議論を重ねてきました。国の方針に基づいて全国で公共施設の数と延床面積を軸に公共施設再編が進められ、特に学校教育施設の統廃合が顕著になっています。更には、平成27年に文部科学省から学校規模適正化が示され、各自治体は当然のごとく学校統廃合に向けた動きが加速しています。本市においても例外ではなく、保護者、教員に向けた学校施設再編についてのアンケート調査を実施するなど、市内小・中学校13校についての今後のあるべき将来像を模索している状況と推測します。令和3年度までの3か年で「鶴ヶ島市公共施設個別利用実施計画」を策定することとなっておりますが、改めて、以下の通り質問をいたします。</p> <p>(1) 各小・中学校の10年後、20年後の児童・生徒数の推計から考えられることは。</p> <p>(2) 地域の核としての学校とは。</p> <p>(3) 学校統廃合によるメリット、デメリットについて</p> <p>(4) 今後の学校教育施設の再編に向けたスケジュールについて</p>	<p>市長 教育委員会教育長</p>
<p>2 長期化するコロナ禍の影響について （25分）</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大から半年以上が経過しました。私たちはいつ収束するのかまったく先の見えないコロナ禍と日々向き合いながらの生活を送っています。「新しい生活様式」の言葉に</p>	<p>市長 教育委員会教育長</p>

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>促され、大人も子どもたちもこれまでとはかけ離れた生活様式に変わりました。感染症拡大を防ぐためにはやむを得ないことと受け止めています。</p> <p>この「新しい生活様式」では、ソーシャルディスタンスをはじめ、人と人とのコミュニケーションに関する様々な項目が示されています。しかし、人と人が距離をとることで人とのつながりが希薄になることへの不安や、身体、心の不安定な状況等が広がっています。</p> <p>「収束するまでの間、我慢してください。」「今年は皆で耐えていきましょう。」という声が聞こえてきます。このような状況下で何が出来るのか、どのように乗り越えていったらいいのか、なすすべはないのかと自問自答しています。行政として市民とともに現状に立ち向かう考えはありますか。以下について質問します。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 自治会をはじめ、地域活動が停止していることの影響について(2) 各種イベントが中止していることへの影響について(3) 児童・生徒に与えている影響について(4) 人々の心と身体への影響について(5) 感染症拡大が収まらず、長期化した場合の対応策は。(6) 財政的支援について	